

韓国自転車業界近況

2014年7月7日

事業部

韓国政府はアジア通貨危機後崩壊した自転車製造業を国内に復活させ、5年以内に3大生産国の一つになるという目標を2009年に打ち上げ、高付加価値製品の開発等に向けた支援策を実施した。

しかし、その後どうなったのかの情報が入って来ていなかったが、本年5月26日に韓国の経済紙の一つである毎日経済新聞がインターネット版記事で今までの韓国自転車製造業の姿と最近の状況を伝えているので報告する。

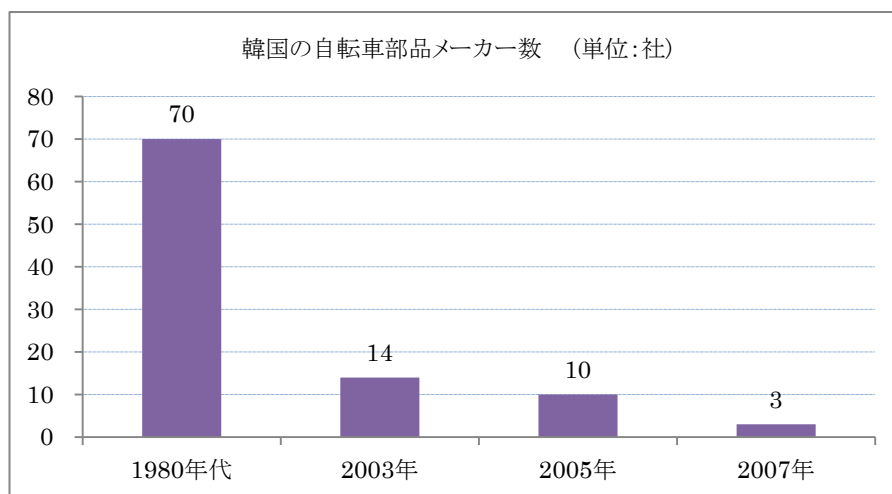
◇60～80年代はOEMで輸出急増

同紙によると、韓国は1960～1980年代、部品の国産化政策に支えられた輸出急増により、世界的な自転車の生産拠点としての役割を果たした。特に1980年代後半は三千里自転車、コレックスなどの主要メーカーは生産量の80%以上を米国と日本のOEM（相手先ブランド生産）で納品していた。

しかし、1997年のアジア通貨危機後、完成車メーカーは輸入品に切り替えたり、生産拠点を移転したりした。例えば三千里自転車は2005年に沃川工場閉鎖後、主に中国のOEMに依存し、アルトンスポーツも1995年に中国深圳に工場を設立して国内では生産していない。

大型自転車メーカーの中国移転によって自転車の部品メーカーも影響を受け、韓国の産業通商省によると、自転車の部品メーカーは1980年代には70社以上あったが、2003年は14社、2005年は10社、そして2007年は3社と減少し消滅寸前となっている。

また、国内大手完成車メーカーの関係者の話として、海外工場に生産を全て委託し国内製造基盤が空洞化した結果、自らの製品開発がスムーズに行われず、急変するトレンドに合わせたデザインと製品の開発が困難になったという生産海外移転のマイナスの側面も伝えている。

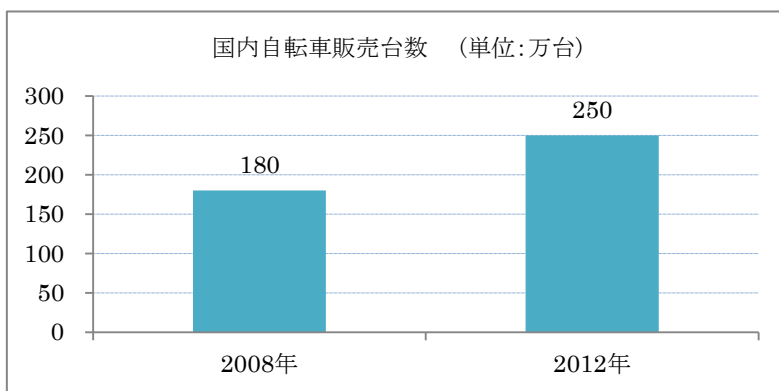


(毎日経済新聞記事のデータを基に作成)

◇国内市場は拡大、自転車人口は1,000万人に

しかし、国内製造業復活のための施策の一環として実施した自転車利用促進策は奏功し、国内の自転車販売台数は増加し、2008年の180万台レベルから2012年は250万台を超え、4年の間に40%近く増加し、需要は毎年増加傾向にあるという。

韓国の人口約5,000万人（2012年現在、出所：日本外務省）に対し、自転車乗用人口は1,000万人に達し、男性中心ではあるものの最近では女性と家族を中心に需要が着実に増えているとのこと。

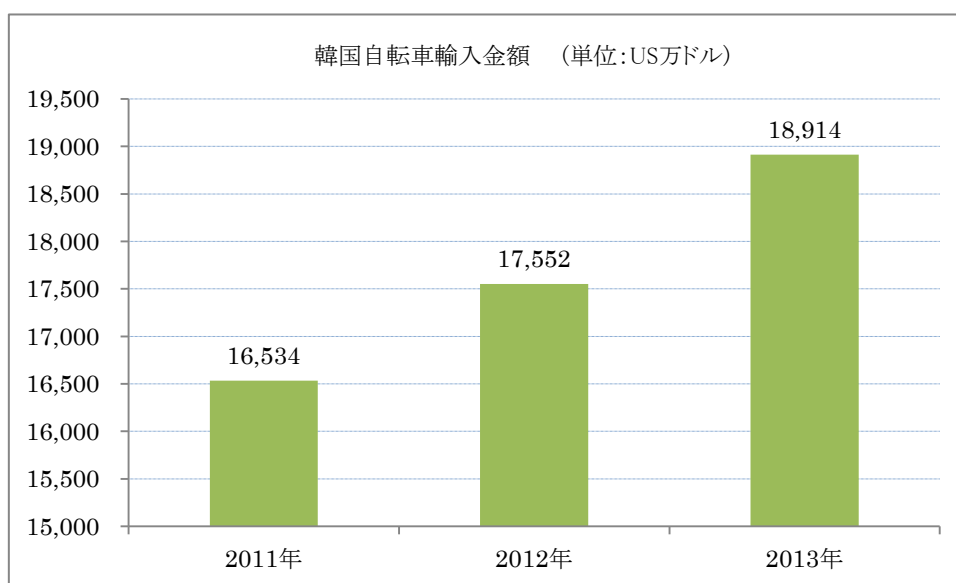


(毎日経済新聞記事のデータを基に作成)

◇低調な国内生産と輸出、拡大する輸入

一方、近年国内で1年間に生産される自転車は1,000台前後に過ぎず、また、国産自転車の輸出については、韓国を代表する自転車メーカーである三千里自転車の2013年の売上高1,108億ウォンのうちの0.03%に過ぎなかったとのこと。2011年の輸出実績はゼロだったという。

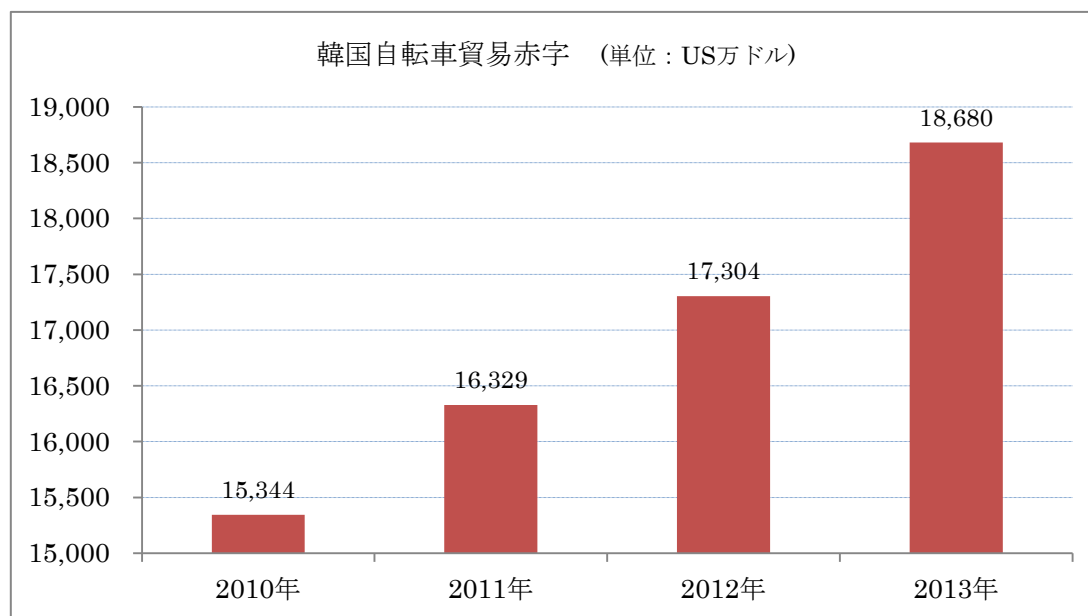
国内生産が減少したなか、国内市場規模が拡大したことで、自転車の輸入額は韓国関税庁の輸入統計によると2011年1億6,534万ドル(約1,863億ウォン)、2012年1億7,552万ドル(約2,011億ウォン)、そして2013年1億8,914万ドル(約2,107億ウォン)と毎年増加しているという。



(毎日経済新聞記事のデータを基に作成)

◇ “自転車貿易赤字” が毎年拡大

記事は自転車関係の貿易で輸出額より輸入額が大きいことを“自転車貿易赤字”と表現しているが、その自転車貿易赤字の規模は2011年1億6,329万ドル（約1,840億ウォン）、2012年1億7,304万ドル（約1,983億ウォン）、そして昨年は1億8,680万ドル（約2,081億ウォン）と毎年拡大していると伝えられている。



(毎日経済新聞記事のデータを基に作成)

◇国内市場は大手3社が70%を占める

韓国国内の自転車市場に目を向けると、三千里自転車、アルトンスポーツ、そして三千里の子会社であるVERYGOODLEISUREがシェア70%以上を占めているとのこと。

1位は三千里自転車で、2011年の売上高898億ウォンから昨年は1,108億ウォンを記録し、業界の首位を守っている。

2位は2010年当時、業界3位だったコレックス自転車を買収し、昨年は売上高615億ウォンを記録したアルトンスポーツ、そして3位は高級スポーツバイクを販売し昨年の売上高が499億ウォンだったVERYGOODLEISUREとなっている。

順位	社名	(億ウォン)	(億円)
1	三千里自転車	1,108	110.65
2	アルトンスポーツ	615	61.39
3	VERYGOODLEISURE	499	49.81

(毎日経済新聞記事のデータを基に作成。レートは1ウォン=0.099円)

国内市場の残りの 30%は台湾のジャイアントとメリダ、そしてアメリカのトレックのような外国ブランドの自転車が押さえている状況だという。

◇国際化し活発なビジネスを行っている韓国完成車メーカー

記事の論調は、韓国の自転車業界について完成車メーカーの国内事業だけに注目し組立と流通だけで“自転車貿易赤字”が毎年拡大していると悲観的な見方をしている。しかし、確かに年間生産台数は 1,000 台前後と少ないものの、今日では国内市場が 250 万台にまで拡大し自転車乗用人口が 1,000 万人に達したことは韓国自転車産業全体から見ると国内市場が拡大したと言え、状況の大きな変化と言えるかもしれない。

一方、韓国自転車製造企業の国際的なビジネス展開の面から見た場合、三千里は天津で調達した完成車を、またアルトンは天津工場で生産した完成車を、韓国市場向けだけでなく北米や日本等の市場にも OEM で輸出している。

韓国の完成車メーカーはアジア通貨危機を経てより国際化し、依然活発にビジネスを行っているようだ。

(本稿への記事転載に当たっては、韓国毎日経済新聞から許可を受けています)

以上